

第IV部門 中心市街地活性化のための都市施設整備マネジメントに関するシステム論的研究

立命館大学 正会員 春名 攻
立命館大学大学院 正会員 ○山田幸一郎
(日本建設コンサルタント(株))

1. はじめに

本来、中心市街地とは「職・住・学・遊」の機能が高度に集積され、地域の中で最も活力のある中心的な役割を持った地区である。しかしながら、近年のモータリゼーションの進展による都市機能の分散化、ライフスタイルの変化によるニーズの多様化、中心市街地の老朽化等の原因によって、中心市街地の空洞化や交通渋滞・事故等の交通問題が全国各地で大きな問題となっている。これから日本に訪れようとしている、少子・高齢社会への対応やエネルギー問題等を考え合わせると中心市街地の活性化が急務であると思われる。

しかし、各地の商店街等で、顧客吸引力を高めるためのさまざまな取り組みがなされてきているが、都市全体の回遊環境やアクセス環境をはじめとする全体的な都市環境を良好にしていく上での課題・問題が山積している。つまり、中心市街地活性化のための具体的な対策を行おうしても、様々な要因が絡みあって成立している地区の都市活動状態を把握しない限りは、問題解決には結びつかないものと考えられる。そこで、著者が従来から開発してきた地区内行動シミュレーションモデルを用いて、都市活動の時代的变化を捉えた上で、将来に渡って中心市街地の活性化が維持されることを目的とした都市施設整備計画立案のためのモデル分析を行うこととした。

2. 都市活動の再現化

シミュレーションモデル（以後：モデルと言う）による都市活動の再現化に際して配慮した事項は、次の通りである。

- ・都市活動の主体である中心市街地来訪者の行動特性が配慮されていること(図-1参照)。
- ・都市施設整備が実施でき、施設整備後の状態を仮想表現できること。
- ・都市活動の状態を表すための指標（交通状態・経済活動状態等）を計測できること。
- ・これらの事項が施設整備効果が計測できる程度の精度で再現化でき、かつモデルの実行時間が短いこと。

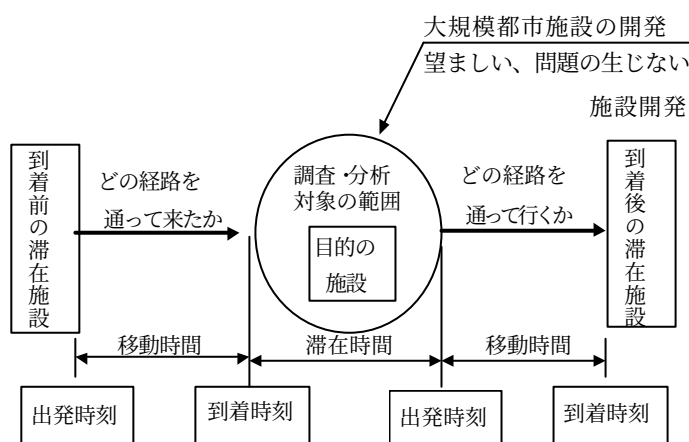


図1 中心市街地来訪者の行動パターン模式図

モデルの概要

本モデルは、集客施設（もしくは駐車場）であるノード間（リンク）を仮想した個々人が地区内を自動車・公共交通・歩行によって回遊し、集客施設では時間・金を消費するモデルであり、離散型の動的マイクロシミュレーションモデルである。本モデルは、大きく分けて歩行者／交通流／施設訪問シミュレーション

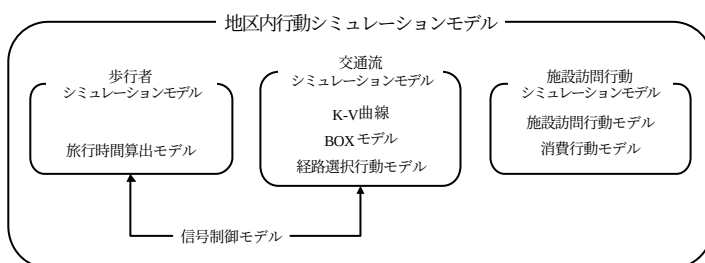


図2 シミュレーションモデルの概要

キーワード： 中心市街地活性化，再開発，交通施設計画，来訪者行動，シミュレーションモデル

連絡先： 〒525-0058 滋賀県草津市野路東 1-1-1 TEL/FAX (077) 561-2736

ョンモデルによって構成されている。なお、詳細な説明は割愛する。

そして、中心市街地活性化のための都市施設整備計画や開発プロジェクトを、図-3 に示すような中心市街地での人々の活動・行動の予測と計画内容の評価・検討を合理的に統合させることによって、望ましい施設整備計画や開発プロジェクトが求められるものと考えた。

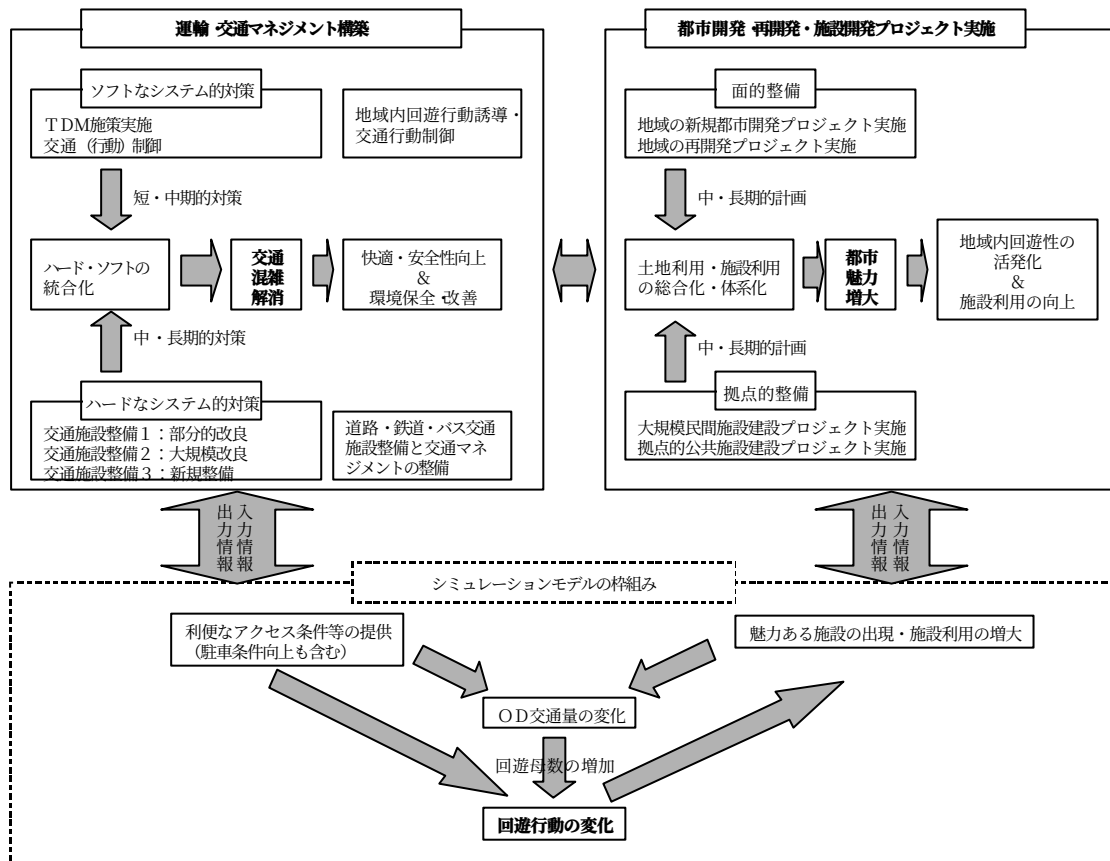


図-3 システム構成図

3. 時間軸を考慮した中心市街地における都市施設整備計画立案のためのモデル分析

中心市街地の健全な発展のためには、短期的・長期的な視点に立った上でまちづくりを進めていくことは重要である。特に、都市施設整備に当たっては、将来の都市活動がどのように変化するか、どのような施設を整備すれば都市活動がどのように変化するかを予測することは重要な検討事項である。特に前者については、集客施設の集客力の経年変化を考慮した上で、モデルを用いて都市活動を再現化することとした。また、都市施設整備計画のマネジメントを進めるに当たっては、財政という制約条件のもと都市施設整備を推進していく必要がある。施設整備する時期等の決定に当たっては、これらの事項を検討した上で判断していく必要がある。

4. おわりに

モデル分析の結果については紙面の都合上割愛したが、中心市街地活性化のための、現実性のある具体的な都市施設整備計画立案を支援するためのシステムが構築できたと考える。

【参考文献】

- 1) 春名攻,山田幸一郎,石黒篤,山岸洋明,立川賢二,“大規模集客施設利用者の施設利用行動特性を考慮した地区内行動シミュレーションモデル開発に関する研究”,土木学会土木計画学研究・講演集 No.22(2), pp.833-836, 1999.